

修士論文（要旨）

2017年7月

高齢者の学習活動の評価に影響する要因
—自治体による高齢者向けの講座参加者を対象に—

指導 杉澤 秀博 教授

老年学研究科

老年学専攻

215J6904

孫 潔

Master's Thesis(Abstract)

July 2017

Factors Influencing the Assessment of Learning Activities of Seniors:A Study of
Participants in Classes for the Elderly Organized by a Voluntary Association

Sun Jie

215J6904

Master's Program in Gerontology Studies

Graduate School of Gerontology Studies

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Sugisawa Hidehiro

目次

序章.....	1
第1章 研究背景と目的	2
1.1 高齢者の学習活動の重要性.....	2
1.2 先行研究の到達点と課題.....	2
1.3 本研究の目的.....	4
1.4 分析モデル.....	5
第2章 研究方法.....	5
2.1 調査対象	5
2.2 調査対象地域の概要.....	6
2.3 調査方法と配布・回収数.....	8
2.4 測定.....	8
2.5 倫理的配慮.....	10
第3章 結果.....	10
3.1 回答者の特性.....	10
3.2 重回帰分析の結果.....	10
第4章 考察.....	11
4.1 高齢者の学習自己決定能力を尊重することの重要性.....	11
4.2 高齢者の学習動機に合致した教育プログラム提供の重要性..	12
4.3 学習阻害要因を除去する重要性	12
4.4 担当講師との交流の重要性.....	13
4.5 身体の QOL の重要性.....	13
4.6 研究の限界と今後の課題.....	13

参考文献

資料

日本の総人口は、2016年では1億2,692万人、そのうち65歳以上の人口は3,434万人で、高齢者の全人口に占める割合は27%である。2008年において65歳以上の人では要介護認定を受けていない人の割合が約8割、75歳以上でも約7割であり、高齢者の健康度は全体として維持していると思われる。しかし、高齢化の進展が著しい中にあるのは、医療費や介護負担の増加の抑制のためにも、高齢者自身がより一層健康維持に取り組むことが重要となっている¹⁾。

高齢者の社会活動の参加推進は、健康増進だけでなく、生きがいの源泉にもなる重要な取り組みである。社会活動の一つに学習による参加がある。好奇心、自立、自分の尊厳にかかわる高齢者の価値意識を踏まえ、「健康に対する関心」「家族に対する関心」「興味に対する関心」「社会貢献に対する関心」に対応するため、高齢者の学習活動が重要であることが強調されている²⁾。高齢者の学習意欲は高く、実際、学習活動に参加している高齢者も少なくない。文部科学省の「学校基本調査」によれば、2015年5月段階で、放送大学の在学学生57,850人のうち60歳以上が14,710人と、全体の25%以上を占めている³⁾。内閣府の「教育・生涯学習に関する世論調査」⁴⁾においても、60歳以上の半数近くが1年間に生涯学習を経験しており、学習内容別にみると「趣味的なもの」あるいは「教養的なもの」を挙げた人の割合が若い世代と比べると高いことが示されている。しかし、現状では高齢者の社会参加の割合が不十分で、その割合をより一層増加させることが必要であるとの指摘がある^{5,6)}。

本研究は、高齢者向けの学習講座参加者における受講に対する評価に影響する要因を解明することを目的とする。対象学習講座は千葉県内北千葉地域の県民施設、および市立の公民館などで開催されている自治体主催のものとし、60歳以上の受講者400名を対象に自記式調査を行なった。回収数は313票であった。受講に対する評価は、「話し合い学習の理解」「学習成果の活用」「継続的な学習意欲の向上」の3側面から行い、要因には、学習動機、学習自己決定度、学習障害尺度、QOL指標、担当講師との関係、学習内容の難易度を位置づけた。「話し合い学習の理解」については、学習自己決定度が強い、知的関心の動機が強い、講座の担当講師との交流頻度が高い人で有意に評価が高かった。「継続的な学習意欲の向上」については、学習自己決定度が強い、知的関心の動機が強い人では有意に評価が高かったものの、学習障害要因として学習支援体制の未整備、学習実施・運営形態の未整備を指摘する傾向が強い人では有意に評価が低かった。「学習成果の活用」については、学習自己決定度が強い、知的関心の動機が強い、身体健康が高い受講者で有意に評価が高かった。

参考文献

- 1) 日本における超高齢社会における生涯学習の在り方に関する検討会：長寿社会における生涯学習の在り方について人生100年いくつになっても学ぶ幸せ「幸齢社会」(2014).
(http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/koureisha/1317565.htm, 2017. 1. 17 取得)
- 2) 牧野篤：シニア世代の学びと社会. 初版, 1-69 勁草書房, 東京(2009).
- 3) 文部科学省：「学校基本調査」(2015).
(http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/1267995.htm, 2017. 1. 17 取得)
- 4) 内閣府：「教育・生涯学習に関する世論調査」(2016).
(<http://ryoushin.hatenablog.com/entry/2016/03/25/090000>, 2017. 1. 17 取得)
- 5) 堀薫夫, 他：教育老年学と高齢者学習. 初版, 21-43, 学文社, 東京(2012).
- 6) 瀬沼克彰：21世紀の生涯学習と余暇, 高齢者の生涯学習と地域活動. 初版, 1-60, 学文社, 東京(2010)
- 7) Boulton-Lewis G, Aird R, Buys L: Older Australians Structural Barriers to Learning in later life. *Current Aging Science*. 9(3):188-195(2016).
- 8) Findsen B, Formosa M: Lifelong Learning in Later Life, A Handbook on Older Adult Learning. 1st ed, 63-171, Sense Publishers Rotterdam Boston Taipei, Netherland (2011)
- 9) 瀬沼克彰, 生涯現役の社会参加活動. 初版, 112-114 日本地域社会研究所, 東京(2011)
- 10) National Institute of Adult Continuing Education: Learning in Later Life A Public Spending Challenge. 25-35, National Institute of Adult Continuing Education, England and Wales (2006).
- 11) 山本孝司, 久保田：高齢者の学習活動における「生きがい」の意味—教育学におけるライフスケール再検討のため試論. 九州看護福祉大学紀要, 9(1):31-40(2007).
- 12) 磯村由美：高齢者の生きがいと生涯学習との関係. 日本仏教研究, (17):118-122(2009).
- 13) 林幸克, 成人の学習活動の阻害要因の検討—社会教育行政の講座の受講者の意識調査に基づく考察. 文教大学, 教育研究所紀要 (11):115-122(2002).
- 14) 堀薫夫, 他：教育老年学の構想：エイジングと生涯学習. 初版, 91-227 学文社, 東京(1999).
- 15) 神部純一：高齢者大学における学習者の特質—SDLRSによる高齢者の分析—. 日本生涯教育学会論集, 32: 123-132 (2011).
- 16) 堀薫夫, 他：生涯学習と自己実現. 59-79, 放送大学教育振興会, 東京(2006).

- 17) 林清美, 橘 良 治: 児童・生徒による教師影響力の認知岐阜大学教育学部研究報告 人文科学 第56巻 第1号:193-203, (2007).
- 18) 秋月千典: 運動学習にとって最適な課題難易度に関する研究. 茨城県立医療大学大学院 博士後期課程保健医療科学研究科, 茨城(2015).
- 19) 森敏昭, 三島 知剛, 古本 由衣: 学習継続意志に影響する心理的要因. 学習開発学研究 (1), 63-71(2007).
- 20) 柏市市役所保健福祉部高齢者支援課: 平成27年「柏市高齢者いきいきプラン 21プラン」 (2015).
(<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/060300/p008008.html>, 2016. 12. 22 取得)
- 21) 我孫子市市役所: 「我孫子市将来人口推計報告書」 (2013)
(<https://www.city.abiko.chiba.jp/shisei/toukeijoho/chosahoukoku/teijyukasokushin/jinkousuikai.files/20130917-083916.pdf>, 2017. 4. 17 取得).
- 22) 総務省国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所: 「将来推計人口総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」 (2016).
(<http://jp.gdfreak.com/public/detail/jp010050000001012224/1>, 2017. 4. 19 取得)
- 23) 柏市教育委員会生涯学習部生涯学習課: 平成21年第2次柏市生涯学習の推進計画<改訂版> (2009)
(<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/280700/p005653.htm>, 2016. 12. 22 取得)
- 24) 林幸克: 社会教育行政の講座を受講している高齢者の学習意識の検討. 高齢者のケアと行動科学, 9(1):66-73(2003).
- 25) 立田慶裕, 下村英雄, 岩崎久美子, 他: 生涯学習の学習需要の実態とその長期的変化に関する調査研究. 国立教育政策研究所生涯学習政策研究部 22-38;75-98(2013).
- 26) 岩崎久美子, 下村英雄, 他: 経験資本と学習. 初版, 124-133, 明石書店(2016).
- 27) 福原俊一, 鈴鴨 よしみ: SF-36v2 日本語版マニュアル: iHope International 株式会社, 京都(2004, 2015).
- 28) 生涯学習研究 e 事典(2005)
(<http://ejiten.javea.or.jp>, 2016. 12. 22 取得)
- 29) 神部純一: 高齢者の自立と学習に関する研究. 滋賀大学教育学部紀要, No. 45:263-270(1996)
- 30) 立田慶裕: 生涯学習の課題と展望. (川野辺 敏, 立田 慶裕編). 生涯学習論 185-193, 福村出版株式会社, 東京(1999).